

The 5th  
KYOTO  
International  
Indies-Cinema  
2011



Photo by Yuzuru Yoshikawa

# 京都国際インディーズ映画祭

CrIS 関西参加イベント「KYOTO CMEX 2011  
京都太秦シネマフェスティバルイベント

2011年10月1日(土)

◎午後5時30分:受付開始、上映&イベント:6時~9時(予定)

**JAPAN 3.11**  
緊・急・上・映

京都・新風館(京都・烏丸姉小路下ル)

TEL: 075-213-6688(代表)  
http://www.shin-puh-kan.com/access.html

◎参加費: 1,000 円

◎お問い合わせ

京都国際インディーズ映画祭実行委員会  
TEL.06-6241-0522  
E-mail<h2d.hirose@poppy.ocn.ne.jp>

◎プログラム

1部 / 「文化庁メディア芸術祭ネットワークス」作品上映

- ・The Wonder Hospital(アメリカ) ・The Eye Writer(アメリカ)
- ・The Men In Grey(ドイツ) ・NIGHT LESS(日本)

▼ダンス<3.11 レクイエム>KC-9finiti

2部 / 東北大震災 特別企画テーマ「崩壊した安全神話」

- ・20万の亡霊(フランス) ・安全地帯(チェコ) ・私は日本だったら(日本)
- ・隠された被曝労働: NUCLEAR GINZA(イギリス・チャンネル4放映)

\*上映作品は都合により一部変更になる場合があります。ご了承ください。



■主催: 京都国際インディーズ映画祭実行委員会

●共催: 太秦フェスティバル実行委員会、CON-CAN ムービーフェスティバル  
京都メディア・アート・ラボ

●協力: 文化庁メディア芸術祭、まちの記憶と未来 - 京都映像アワード

●協賛: メディア総合研究所、三洋電機、映像システム、京都ラジオカフェ、  
新風館、パプロ、ハーディセ カンド、セカンドステージ

**JAPAN 3.11 「崩壊した安全神話」** 東北震災から  
見えてきたもの

◎第5回・京都国際インディーズ映画祭

3月11日、東日本大震災をきっかけに浮かび上がったメディア社会が抱える問題をテーマにした作品を一挙上映。世界6カ国から9作品を上映。「東北大震災・福島原発事故」で見えてきた企業や政府の対応、マスコミによるメディア報道のあり方について考える。原爆と原発。どこがどう違うのか。そして、社会は……。

◎「文化庁メディア芸術祭ネットワークス」

◎平成23年度文化庁メディア芸術祭国内巡回事業

科学技術の可能性を追った作品やネット社会の不確かさをテーマにした現代をあぶり出す優れた作品を紹介。「平成23年度・文化庁メディア芸術祭」受賞作品を上映。



■京都国際インディーズ映画祭実行委員会

事務局代表: 広瀬之宏

〒629-0151 京都府南丹市八木町南広瀬砂子 39-1

▼連絡先・お問い合わせ

〒542-0081 大阪市中央区南船場 2-10-28 下村ビル 404 号  
(有限会社ハーディセカンド内)

TEL.06-6241-0522 FAX.06-6243-1219

Mail to <h2d.hirose@poppy.ocn.ne.jp>



KC-DanceTeam <9finiti >

▼京都国際インディーズ映画祭: STAFF

- ◎総合プロデューサー: 広瀬之宏
- ◎プログラミングキュレーター: 谷浩之
- ◎会場ディレクター: 佐々木伸也
- ◎MC: 高嶋加代子
- ◎音響: 知見雅彦・三谷達也
- ◎映写: 今井悟朗
- ◎サイン: 上西孝典
- ◎AD & デザイン: 広瀬之宏・川端一実
- ◎WEBディレクター: 徳山拓一

<http://www.kyoto-media-arts-lab.jp/>